

革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）  
三次公募 事後評価結果報告書

|         |                                        |
|---------|----------------------------------------|
| 研究課題名   | がん診療の質の向上と研究開発に資するリアルワールドデータプラットフォーム開発 |
| 所属      | 京都大学                                   |
| 研究開発代表者 | 武藤 学                                   |

1. 本課題の概要

医薬品開発や臨床試験の効率化において、世界的にリアルワールドデータ（RWD）の活用が進む中、わが国では、医療分野のデジタル化と DX の遅れが喫緊の課題となっている。一方で、わが国の電子カルテの普及率は高く、国民皆保険制度やがん登録法、レセプトデータの電子化などが整備され、診療現場のデータは豊富である。CT など医療機器の普及率も高く、臨床検査も院内で実施されるケースが多く、それらのデータは院内電子カルテサーバーに格納される状況にある。

本事業は、国内の主要システムインテグレーターとの産学連携の下、最新の AI 技術を援用し、次の 4 つのプロジェクトを実施した。これらの研究開発を通じ、J-CONNECT（RWD 収集基盤体制構築のためのコンソーシアム）プラットフォームとも連携して、わが国における RWD 収集基盤を構築するとともに、社会実装によって医療の質の向上と臨床研究・臨床開発の効率化と活性化に繋ぐことを目的とした。

- a) CyberOncology（臨床情報を電子カルテから収集・構造化するシステム）を用いた新しい RWD 収集
- b) RECIST 自動測定システムを用いたクラウド型中央判定
- c) 臨床検査データのデジタル化とアーカイブ基盤の構築
- d) 治験支援業務の DX 化と CyberOncology 連携

2. 評価結果(令和 7 年度末で満了)

がんの診療と研究・臨床開発のための RWD プラットフォームの基盤構築がなされ、また画像判定や検査データ、治験支援を結ぶ実装パッケージの具体化も行われた。今後、医療データの高次利用が期待される中、本課題で得られた成果の利活用を進め、多施設で運用可能な RWD 基盤としての日本全体への社会実装が推進されるよう期待する。